



SiP

効率化・高度化・戦略化の捉え方

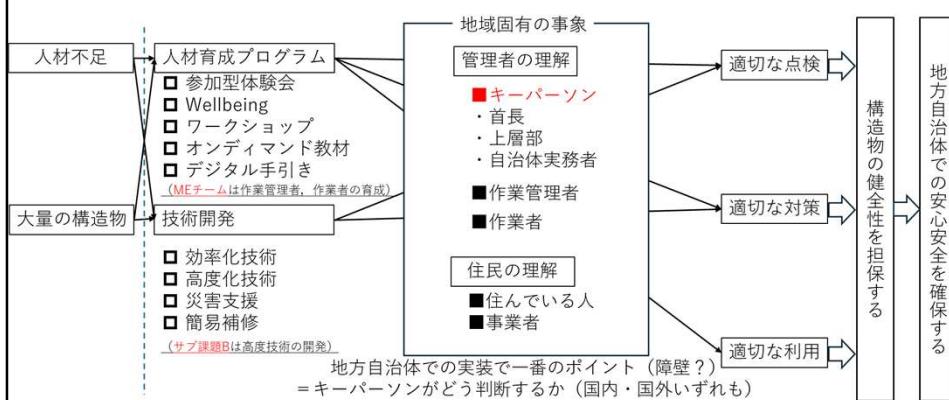
静岡理工科大学 理工学部 土木工学科
教授 西田 孝弘

0

効率化・高度化・戦略化の捉え方：パッケージ化に向けて



サブ課題C「地方自治体等のヒューマンリソースの戦略的活用」（ロジックモデル風）



全国自治体の維持管理に対する取り組み

構造物の初期欠陥、老朽化に悩む地方自治体

山口方式 徳山高専田村先生（2004年頃から）

全国へ波及

- ・長崎 道守
- ・福島 ロハス橋、ボランティアによる道路整備
- ・山口、岐阜、長崎、愛媛、舞鶴でのME制度
- ・土木学会「社会支援部門インフラメンテナンス総合委員会知の体系化小委員会」
- ・地方インフラ・メンテナンスネットワークLIMN

山口県の取り組み

日本大学

LIMN

→ 現在のSIPへの期待

SiP 戦略的イノベーション創造プログラム

2

効率化・高度化・戦略化の捉え方：パッケージ化に向けて

サブ課題C「地方自治体等のヒューマンリソースの戦略的活用」（ロジックモデル風）

人材不足

大量の構造物

人材育成プログラム

- 参加型体験会
- Wellbeing
- ワークショップ
- オンディイマンド教材
- デジタル手引き
(MEチームは作業管理者、作業者の育成)

技術開発

- 効率化技術
- 高度化技術
- 災害支援
- 簡易補修
(サブ課題Bは高度技術の開発)

地域固有の事象

管理者の理解

- キーパーソン
 - ・首長
 - ・上層部
 - ・自治体実務者
- 作業管理者
- 作業者

住民の理解

- 住んでいる人
- 事業者

適切な点検

適切な対策

適切な利用

構造物の健全性を担保する

地方自治体での安心安全を確保する

サブ課題Cでの開発要件

1. 管理者・住民の理解が得られる
2. 実際の運用に耐えうる 技術開発を目指している。

言い換えれば、キーパーソン育成プログラム
サブ課題Cでは、単なる人材育成プログラム、技術開発の創出だけではなく、地域固有の事象に対して対応できる全体戦略を考えて進めていることが特長。
要件が合致すれば、MEチーム、サブ課題Bとの連携も可能

野心と情熱を持った人を育てる

3

地方自治体を分類することの意義



地方自治体の分類は。。。。

自治体ごとの優劣をつけるため

ではない。

最も効率的に「ほしいもの」を提供できるようにするため

- ・シンプルな指標
 - ・大まかな分類
 - ・困っていることの適切な抽出
 - ・開発者とユーザーの共通言語化

究極的には
オンラインショッピングのレコメンド機能



ニーズ（状況）調査

